

第4回 仙台市音楽ホール検討懇話会 議事要点

1. 音楽ホールの立地のあり方と検討方法について

(1) 音楽ホールの立地について

①他の都市機能との相乗効果が期待できる立地

- 少子高齢化、人口減少社会など踏まえ、都市機能の集約が課題であり、その集約された機能との相乗効果が狙えるところに立地することが望まれる。

②アウトカム（成果）を持続的に高めていくことができる立地

- 施設整備や来館者数などアウトプット（活動量）だけではなく、人づくり、まちづくり、都市のブランディングなどアウトカムを高めていくことを考えて、立地を考えるべきである。

③まちの回遊性を高めることのできる立地

- 音楽ホールが目的性が高く、吸引力の強い施設であるならば、仙台駅から離れても、むしろまちの回遊性を高める拠点となって、まちの活性化につなげることができる。

④立地環境自体を創造する

- 既存のまちを前提に、利便性や効率性から考えるだけではなく、創造活動、人材育成、様々な人が集まるなど、この施設の活動に相応しい環境とはなにかから立地を考えるべきである。

⑤都市の競争力を高める

- 仙台市の集積を活かし、他施設との連携など、グローバルに戦える都市の競争力形成の戦略の中にこの施設を位置付けるべきである。

⑥既存集積を活かす、民間との連携を図る

- 新たな立地場所を探すだけではなく、既存施設の活用、民間との連携・協働など既にある集積を活かし、市中心部での立地を考えるべきである。

⑦この施設が担うべき文化芸術振興の機能を損なわない

- どのような立地であっても、この施設が目指している機能、例えば大型の大会などが適切に運営できることなど、基本的な狙いが損なわれることがあってはならない。

(2) その他考えるべき視点

①移動についての技術革新

- 10年、20年後となると移動手段も大きく変化し、遠方から仙台に来るにも、市内の移動も革新的に時間が短縮され、容易になるのではないか。そのようなことも視野にいれるべきである。

②従来の都市づくりを超える発想

- これまでの都市づくりや集積のあり方から利便性や効率を考えるのではなく、様々な、幅広い市民が集まり、文化芸術などの活動を行っていく環境とはどのような場が相応しいのか、周辺環境と併せて考えるべきである。

③観光の視点

- 広域的なまたインバンドも想定した観光的な魅力といった視点も大事である。

④民間との連携

- 施設ができてからの維持管理、運営の持続可能性を考えると、もっと民間などとの連携、強力体制を考えるべきであり、そのような可能性から立地を考えるべきである。

⑤リノベーションなどの検討

- 新しく建てることを前提とした立地探しだけではなく、リノベーションなどを考えるべきではないか。

⑥早期の実現

- 音楽ホールは、仙台の音楽文化の創造において、今、直ちにでも必要、求められているものであることを前提として欲しい。

(3) 検討方法について

- 立地検討専門部会を設置し、検討をすることを決定した。

以上